

イギリス・アメリカ相互交流に関する ディスコース研究

研究代表者 高橋正平

1. 分担者

金山亮太
高橋康浩
平野幸彦

2. 協力者・所属

岡村仁一（教育学部）

3. 2008年度の研究活動の概要

2008年度は前年度同様アメリカ創生期の植民地時代におけるイギリス人とアメリカの交流と19世紀から20世紀にかけてのイギリス人とアメリカとの関係を中心にして研究を行った。高橋（正）がオスカー・ワイルドのアメリカ旅行、金山亮太がアメリカにおけるサボイ・オペラについて研究成果を発表し、高橋康浩は民主主義の大国アメリカに関する論文を書き、協力者岡村仁一もHerman Melvilleを独自の観点から研究を行った。

4. 2008年度の研究成果の概要

高橋（正）は、イギリス人説教家によるヴァージニア植民擁護説教のレトリックを3人の説教家を取り上げて論じた。その手法は聖書を利用し、ヴァージニア植民と類似した箇所を聖書から抜き出し、植民の正当性を訴えるものであった。説教家は、経済的色彩の強い植民を宗教的使命と主張し、キリストの「福音」を異教徒に広めるための植民であることを聖書を利用して説いており、そのレトリックを論文で論じた。19世紀後半のイギリス審美主義を代表するオス

カー・ワイルドのアメリカ旅行についてはワイルドの4編の講演からワイルドの実像に迫った。ワイルドのアメリカでの主要な講演題目は、「イギリスの文芸復興」「住宅装飾」「芸術と職人」であった。ワイルドはこれらの講演で自らの審美主義の実体をアメリカ人に説明し、またアメリカ人にもっと美を意識した人生を送るようにと繰り返し述べた。ワイルドはこれら3編の講演以外に「1848年のアイルランド詩人たち」と題する講演も行っている。この講演ではイギリスによって自治を奪われたアイルランドがその自治回復のために戦っている様を歌っている様々な詩人をワイルドは共感・共鳴をこめてサンフランシスコ在住のアイルランド人に語っている。高橋は、この講演にワイルドのアイルランド人としての真の姿が見られることを強調し、ワイルドのアメリカ講演旅行は、ワイルドがアイルランド人としてのアイデンティティを再確認した旅であったことを論じている。

金山の論文「サヴォイ・オペラをアメリカで観る」は19世紀後半のイギリスで生まれたサヴォイ・オペラは今日なお英米圏の国々で根強い人気があるが、イギリスの隣国アイルランドではこの軽歌劇を楽しむ習慣がないように見えることに注目し、一見すると古き良き時代を懐かしむためのメディアに見えるサヴォイ・オペラが、その成立時期の時代背景を濃厚に残しているが故に、観る側あるいはそれを演じる側にとって複雑な感情を引き起こすものであることを論じた。特にアメリカにおいてサヴォイ・オペラを知っていることが教養人としてのたしなみの一部となっていることの意味についても考察した。

高橋康浩の「アメリカとは何か」は民主主義の大国アメリカのその政治思想的成り立ちを叙述している。

岡村の論文、「生命の脈打つ動き — Melvilleの “The Apple-Tree Table” について」は、Melvilleの短篇，“The Apple-Tree Table” においてその語り手は、自宅の屋根裏部屋に放置されていた林檎材のテーブルの中から百数十年経て突然誕生した虫の姿にもう一人の自分の姿、即ち、古い認識からの再生へと導かれる自らの姿を見ることを論証し、論文ではその語り手の認識の変化を追っている。

5. 2008年度の研究成果の一覧

高橋正平

論文

1. 「オスカー・ワイルドとアメリカ」平成20年5月『人文科学研究』第122輯, pp.5-36
2. 「ジェズイットのマキアヴェリ批判—アントニーオ・ポッセヴィーノとペドロ・デ・リバデネイラ」平成20年5月『新潟大学言語文化研究』第13号, pp.71-99
3. 「トマス・ランブルとカトリック教批判」平成20年10月『人文科学研究』第123輯, pp.21-48
4. 「ヴァージニア植民擁護の説教の手法」平成21年3月『欧米の言語・社会・文化』第15号, pp.1-25)

発表

1. 「[ルカ伝IX:54-56]をめぐる火薬陰謀事件記念説教」平成20年10月18日, 第43回, 新潟大学英文学会

金山亮太

論文

1. 「サヴォイ・オペラをアメリカで観る」『人文科学研究』第122輯, pp.55-76, 平成20年7月
2. 「血は水より濃いのか: 英文学の場合」『19世紀学研究』第2号, pp.87-104, 平成21年2月, 19世紀学学会・19世紀学研究所

発表

1. 19世紀学学会第3回シンポジウム『19世紀学とは何か—19世紀学研究の可能性』
パネリストの一人として「血は水より濃いのか: 英文学の場合」を発表,
平成20年5月24日
2. 東北英文学会第63回大会シンポジウム『英国演劇研究の〈空白〉』
パネリストの一人として「ノンボリの政治性—サヴォイ・オペラの功罪

について」を發表, 平成20年11月24日

3. 翻訳:「グリフィス一族の運命」『ギヤスケル全集 別巻Ⅱ 短編・ノンフィクション』231~268ページ, 平成21年3月, 大阪教育図書

高橋 康 浩

論文

1. 「アメリカとは何か」『人文学の生まれるところ』東北大学出版会 2009年3月185~199ページ

発表

1. 「内村鑑三の非戦論」内村鑑三研究会 慶応義塾大学 2008年11月
2. 「内村鑑三の平和主義」内村鑑三講演会 NPO法人今井館 2009年3月

岡 村 仁 一

論文

1. 「生命の脈打つ動き—Melvilleの“The Apple-Tree Table”について」, 岡村仁一, 『新潟大学言語文化研究』, 第13号, pp.47-55, 平成20年5月

発表

1. 「文学で何を教えるか?—Melvilleを教材に」, 新潟大学教育人間科学部英語学会, 第27回研究大会講演(新潟教育会館)平成20年8月2日